留学を終えて

国際文化学科　小野寺風音

私は、9 月 8 日から 12 月 29 日にかけて、ロシアにあるウラジオストク国立経済サービス大学へ留学してきました。私が留学に行こうと決めたのは 2 年生になってからでした。1 年生の時は、留学には行ってみたいけどお金もかかるし、何より、今まで日本を離れたことのない私が 4 か月も海外で生活できるはずがないと、勝手に決めつけ、留学には行かない方向で生活していました。しかし、同時に、毎日電車に乗って学校に来て、授業に出て、友達と話して、また電車に乗って家へ帰る、というなんの変化もない生活はおもしろくないと少し感じる自分もいました。

2 年生になり、周りの友達と留学のことについて話す機会が必然的に多くなり始めたとき、私は今の生活を、今の自分を変えたいと思うようになりました。それは突然のことでしたが、その「変えたい」気持ちは日に日に大きくなっていきました。そして、今までの生活と自分自身を変える方法として思い浮かんだのがロシアへの留学でした。また、授業でロシアのことを色々聞いているうちに、ロシアへ行って、直接生活や文化を体験し、自分の目でロシアを見てみたいと思いました。これらが私が留学を決意したきっかけと理由です。

授業について

大学と寮の往復はいつもエスカレーターを使っていました。外に出ることはないので冬でも寒くなく、距離も近いのでとても便利でした。授業は、私たち国際情報大学から留学に参加したのは 6 人だったので、3 人ずつにクラスが分けられました。すべてのクラスが 10 人ほどの少人数制で、私のクラスは韓国、中国、ラオスなど、様々な国から来た留学生がいました。年齢の幅も広く、賑やかな人が多くて、授業はとても楽しかったです。もちろんはじめのうちは先生の言っていることが理解できず、ほとんどの単語を辞書で調べ、意味が分かったと思ったらどんどん知らない単語が出てきて、といったようについていくのがやっとという感じでした。しかし、先生方がとても優しく、ユーモアあふれる方々で、少しでも出来るようになったら褒めてくれたり、わかるまで丁寧に教えてくれました。そのおかげで私も頑張ろうと思えました。毎日のように課題が出されますが、苦ではありませんでした。

午後の授業は日本人 6 人で受けました。途中から、仲良くなった台湾人の留学生 2 人と一緒に地理、歴史の授業を受けました。午後は音楽や美術、歴史など、ロシア語を学ぶというよりロシア文化を学ぶ授業が多く、ロシアの歌を歌ったり、民芸品を実際に作ったりしました。今思うと、このような授業こそ、なかなか体験できない貴重なものだったように思います。

学生寮での出会い

私たちが生活した学生寮はひとつの扉を開けると 2 人部屋が 2 つあり、風呂、トイレ、キッチンは 4 人で使うというつくりでした。寮は冬でもとても暖かく、寒くて眠れないなどということは一度もありませんでした。寮についてあまり期待していなっかた分、快適さが予想をはるかに超えていて、過ごしやすかったです。

そして、私たちの部屋の周辺は韓国人留学生が多く生活していました。私たちが入寮した日、顔も名前も知らない私たちを彼らは温かく迎えてくれました。彼らは私たちよりもはるかにロシア語を話すのが上手で、わからなくて困っていたら英語で話してくれたり、簡単な単語に置き換えてくれたりしました。そんな彼らとバスに乗って中心街へ遊びに行くことも多くありました。韓国人の友達と過ごす時間はこの上なく楽しくて、この時間がずっと続いたらいいのに、と思いました。私が風邪をひいた時も、心配して声をかけてくれたり、紅茶をくれたりと本当に親切にしてくれました。彼らが韓国へ帰国する日には、私の中で彼らが、いて当たり前の、家族のような存在になっており、いなくなってしまうという実感がありませんでしたが、ただ涙だけがあふれ、お互いの国へ遊びに行く約束をしました。寮での

生活で、一生の友ができました。

ウラジオストクという街と休日の過ごし方

　ウラジオストクの街並みは、建物がヨーロッパ風で、いわゆる私たちが思い描く「外国」という感じでした。しかし、街を走っている車を見てみるとほとんどが日本製の車。そして歩いている人を見ると、アジア地域であろう顔立ちの人が意外に結構いました。ウラジオス

トクに住んでいる生粋のロシア人も中国などから来る外国人に慣れている様子でした。私たちが街を歩いていても、ニーハオとあいさつされることがしばしばありました。しかし、日本人は珍しいらしく、日本人だと伝えると「そうなの？」と驚かれ、そして必ずと言っていいほど「私、日本のこと好きだよ！」とか、「〇〇っていう言葉知っているよ」などと続きました。それを聞いて私は、日本人であることが嬉しくなりました。また、ロシア人はそれまでのイメージとは違い、気さくで優しい人が多かったという印象があります。道に迷って困っていたり、バスの降り場が分からなくて困っていたりしても、多くの人が親切に教えてくれました。それまで私は、ロシア人は冷酷で無表情という偏見をもっていましたが、その偏見が見事に覆されました。

私たちは、週末はほとんどバスを使って様々なところへ遊びに行きました。バス停が大学の近くにあり、そこから 10 分ほどで中心街に行けました。バスは一律 19 ルーブル（約 38 円）で行きたいところへ行くことができます。私たちは、仲良くなった留学生や、ロシア人の学生とご飯を食べに行ったり、映画を見に行ったり、スケートをしたり、本当に色々なことをしました。ロシアのご飯は私たち日本人にも合う味の料理が多く、値段も比較的リーズナブルだったので、食事面で困ることはほとんどなかったように思います。

また、先生に連れられてオペラやバレエ、アイススケートショーやサーカスを見に行ったり、動物園に行ったりもしました。私はオペラやバレエを人生で初めて生で見ました。演技や演奏がとても綺麗で繊細で、終始感動で鳥肌が立っていたのを覚えています。私は、先生に連れられてきた後も、月に一回のペースでバレエを見に行きました。日本だと少し敷居が高いバレエやオペラですが、ウラジオストクはチケットがとても安く、かつパフォーマンスも充分すぎるほど満足できるものでした。

ウラジオストクで日本に触れる

　経済サービス大学には、書道を中心に、日本について研究している先生がいました。そこで私たちは、ロシア人の先生に教わりながら書道をするという不思議な体験をしました。その他にも、ロシアの伝統的な料理を一緒に作ったりしました。ロシア人の先生なのに、どこか日本人のような雰囲気を持っている方で、話す言語がロシア語であるにもかかわらず、話しているととても心が落ち着くような気がしました。

　また、大学主催のロックコンサートで私たちはひとりの日本人女性に出会いました。彼女はウラジオストク在住で、ロシア語を流暢に話しており、私が将来こうなりたいと思う憧れのような人でした。そして、私たちがウラジオストクに来て初めて出会った日本人であり、現地のことを何でも知っていました。彼女の家にお邪魔したとき、他の日本人の女性も遊びに来ていて、彼女たちは領事館で働いている方たちでした。その方たちから将来についての色々な貴重な話を聞くことができました。

留学生との交流

　大学では、スポーツ大会、クリスマスコンサートなど様々なイベントが行われました。スポーツ大会は留学生を対象にしたもので、私たちが参加した初めての大学イベントでした。それまでは、同じクラスの人や寮の部屋が近い人以外とは交流がなく、話したことがありませんでした。しかし、このスポーツ大会で同じグループになった人と協力していくうちに仲良くなれました。

　また、ロシア語スピーキングクラブというものにも参加しました。このクラブでもたくさんの留学生と交流しました。中国、台湾、アメリカ、ドイツなど、様々な国から来た留学生が参加していました。そのクラブで、日本のことをロシア語で説明したり、美術館に行ったりしました。そして、仲良くなった留学生とご飯を食べに行ったりしました。色々な国のことを聞く時間は私にとってとても新鮮で、有意義なものでした。また、日本のことについて知っている人が多くて、驚いたのと同時に、嬉しかったです。わたしもロシア以外の国に興味がわき、外国についてもっと知りたいと思いました。スピーキングクラブで私は、ロシア語力の向上だけでなく、外国へ関心や理解する力を養うことができました。

おわりに

　私は、留学を通して、様々なことを学びました。そして数え切れないほどの発見がありました。それはもちろんロシア語に関することだけではありません。また、日本人の考えや、行動、好みなど、あらゆるところで、当たり前のようにやってきたことが当たり前じゃなくなり、辛い時間もありました。しかし、圧倒的に幸せで楽しい時間のほうが多かったように

思います。

　また、私はロシアでたくさんの人に出会い、お世話になりました。ロシア人もそれ以外の外国から来た人も、本当にみんな優しくていい人ばかりでした。だから私は、12 月 29 日、日本に帰りたくありませんでした。できることならもう少しここにいたいとも思いました。帰りたくないという気持ちと同時に、私は、日本という国も好きになっていました。日本を離れ、客観的に日本を見て、日本以外の人の意見を聞いて、今日本にある尊い固有の文化を守りたいと思いました。

　そして、色々な国の人たちと関わっていると、なぜ日本はこの国と争っているのだろうと、考えさせられることが多くありました。実際に関わってみると、本当に国境や心の壁などというものはありませんでした。今こんなにも仲良く話しているのにと悲しくなりました。それと同時に、純粋に、今あるつまらない争いを無くしたいと思いました。

　留学に行くか、ギリギリまで悩んだ私ですが、そんな私にとってこの留学は、とても貴重でかけがえのないものになりました。そして、留学での経験を糧とし、これから生活していきたいと思います。